

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290400348		
法人名	アースサポート株式会社		
事業所名	アースサポートグループホーム若葉		
所在地	千葉県千葉市若葉区大宮町3,094-2		
自己評価作成日	令和4年3月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.earthsupport.co.jp/offices/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和4年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の介護状態と心身の特性を踏まえ、可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう、医療と介護を24時間365日綿密に連携して、必要な支援をしています。また心身機能の維持・回復を図り、利用者の生活機能の維持・向上を目指しその人らしい生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営理念の中に「人は、住み慣れた住まいで暮らすことで、自分らしく生活することが出来安心して過ごせる」また、基本方針の中には「利用者ニーズを汲み取り、利用者本位のサービスを提供する」「安全で質の高いサービスと迅速な対応をすることが利用者にとって安心できる暮らしの実現に繋がる」とある様に、常に利用者の生きがいを持った暮らしを重視し、やれることをやってもらって自分の居場所を見つけてもらうように支援している。すべての職員は、利用者の身になった会話をし、統一した声掛けに心掛けている。トイレの時にリハビリを兼ねて廊下を歩いてもらい、敢えて遠いトイレへ誘導したりしている。年間の外出計画を立てているが、コロナ禍で十分な外出支援が行われない中でも、初詣や弁当持参での花見、紅葉見物、芝桜、コスモス等を見に行ったりしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	すべての人々が、住み慣れた街で、自分らしく生きがいをもって暮らしている社会を創造します。	経営理念の「すべての人々が、住み慣れた街で、自分らしく生きがいをもって暮らし続けることができる社会を創造します」を事務室等施設内に掲示し、利用者の生きがいを持った暮らしを重視し、やれることをやってみてもらって、自分の居場所を見つけてもらうように支援している。	以前は理念等を毎週月曜日の朝礼時に唱和しており、コロナ禍で中止しているようですが、理念が自然に身に付くように、毎日唱和をすることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会の行事(夏祭り)などに参加し、地域との交流を考えていましたが、コロナウイルスの影響で中止になり外出も出来ない状態です。	自治会に加入しており、手紙で自治会長を通して行事等のお知らせを行っている。コロナ禍で地域の行事は総て中止となっているので交流は無いが、周辺の花を見ながら隣の農協駐車場まで時々散歩をするとき、地域の方々とすれ違い時に挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の懇談会や地域での研修で認知症についての説明と相談窓口も考えていましたが、コロナウイルス感染で中止となりました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	三ヶ月に一度、あんしんケアセンター、自治会長、民生委員、家族代表、職員などのメンバー構成にて施設での現状報告、意見交換を行いサービス向上に努めている。又、身体拘束等について、を議題に現状を報告すると共に話し合う予定でしたが、コロナウイルス感染で中止なり、書面での報告となりました	運営推進会議はコロナ禍でこの2年間中止しており、3ヶ月に1回ユニット会議の議事録から、利用者状況や職員状況、行事予定、連絡事項等を報告書として、あんしんケアセンターや正副自治会長、家族等に持参したり送付している。持参した時は、ホームの状況を聞かれることが多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護者の方について行政との関わりを密に保ち、施設での問題があった際は相談助言を図っております。キーパーソンの問題、青年後見人の依頼など。又希望があれば施設見学も受け入れております。	生活保護者の利用者が6人居り、内1人の家族が放棄をしたため、区役所の援護課へ相談し仲介を取ってもらった。また、おむつの申請やキーパーソンを探してもらったりもしている。あんしんケアセンターには空室相談や問題のある利用者の対応相談を行いアドバイスをもったりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	令和2年9月1日より、身体拘束等の適正化のための指針を作成し、それに伴い当事業所に身体拘束等適正化委員会を置き、3ヶ月に1度、運営委員会時に委員会を開催する予定でしたが、コロナウイルス感染で書面での報告となりました。	3ヶ月毎に各ユニット毎で身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束を必要とする利用者の有無等を議論した議事録をあんしんケアセンターへ提出している。ユニット会議の中でセンター長を講師として身体拘束をしないケアについて研修を行い、ダメや待て等の停止する言葉は使わないように指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活を支援する事を考え、年間の社内研修は、実施しているが、外部研修はコロナウイルス感染で中止となりました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月一回のユニット会議を開催し、自立支援についての意見交換会や成年後見人制度についても話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や料金形態および医療連携についての説明を予め日時を決めて説明を行い、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の日頃の生活において態度や言葉から不満・苦情を察し改善に努めている。ご家族の意見を頂きサービス向上に取り組んでいる。	毎月「若葉通信」に利用者の写真に居室担当者のコメントや行事予定を載せて請求書と一緒に送っている。家族から「出来るだけ歩かせてほしい」との要望があり、ユニット会議で話し合い、手すりをつかまって足を動かし筋力をつけることにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のユニット会議で意見を頂き、コミュニケーションを図る様に心掛けている。職員からの意見箱も設置し、反映している。	職員の意見や提案を聞く機会は、職員会議や3ヶ月毎に行う個別面談、日常業務の中が多い。また、本社のコールセンターに直接電話が出来るシステムもある。業務中では、食洗器が欲しいとか、キッチン引き出しを直して欲しい、コロナにかかったらどうしたら良いか等の意見・要望等も出る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者との意見交換を行い、現状についての改善内容やモチベーションの向上についての環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	知識と技術の向上を心がける為、スタッフ全員に年一回以上の社内研修を実施しており、スキルアップに努めている。外部研修はコロナウイルス感染で中止している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染ですべて中止となりました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に必要な説明と本人の気持ちを受け入れて話を傾聴する事でゆとりある気持ちでスタッフとの関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の現在の不安や悩みを常に聞き入れて対応が出来るか話し合いの場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いを確認して改善に向けた支援の提案を実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、暮すうえで、パートナーの関係で食事の準備・掃除・洗濯などを本人と共にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	問題解決が難しいと判断した際に、ご家族に面会や外出はコロナウイルス感染で中止しているので、電話などで状況報告を常に行う事で関係作りの構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染で中止している。	コロナ禍で面会は玄関先で仕切りを設けて10分間行っていたが、オミクロン株が流行してからは中止し、Zoom面会を行っている。年間の外出計画を立てているが、コロナ禍で充分行われていない中でも、初詣や弁当持参での花見、紅葉見物、芝桜、コスモス等を見に行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	令和2年9月1日より、開始してから、孤立している利用者はいない。日中は殆どリビングで過ごされていて利用者同士で会話をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	常に連絡が出来る様に機関紙(お便り)を発送して関係を断ち切らない支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴の違いの中で表情や態度で思いを受け止め、理解を図りながらコミュニケーションに努めている。	帰宅願望の強い利用者で、家族に会いたいという要望に対しコロナが落ち着けば会いに来てくれますよとなだめたり、相手が落ち着くような話しをしてあげることには注意している。以前、職業が大工の親方であった人に対して、尊敬の意味も込めて「親方」と呼んでいるが本人はその呼び方でいきいきとしてくるし、気持ちが仕事モードとなって緊張し粗相をしなくなった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にアセスメントを行い、不安を解消できる支援の構築に向けて情報収集の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方や心身状態、残存機能について把握をし、環境の変化に配慮した支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や自立支援に向けての意見交換を実施し反映した内容を介護計画書として作成している。	ケアプランの見直しに当たって家族に現状を詳しく伝え、電話や訪問時に要望を聞き、組み込むように心掛けている。細かな面は毎月のカンファレンスで検討され組み込まれていく。最近の例では、トイレに座ってきちんと用を足せていたのができなくなり始めたといった現象が起こり始め、パッドを使うようにしたことがある。足にむくみが出てきた人には運動量を少し増やしたらどうかと、トイレにいった後に廊下を歩いてもらうような支援を追加した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や支援内容について経過を記録に残し、常にスタッフ間での情報共有又は、ユニット会議で、話し合い介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状態や要望に応じて、通院の送迎を行う等の支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染で中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望を大切にしてかかりつけ医との関係を構築している。また、受診に同行し、施設内での生活について報告を行い、適切な医療支援に努めている。	入居後は、以前掛かっていた内科医からホームの提携医に切り替えてもらい一元管理をしている。内科医以外でも、提携医を介して専門医を紹介する形を取っている。往診は月2回行われ、全利用者を診てもらっている。訪問看護ステーションより週1回の訪問を受け、何かあれば訪問看護師より提携医に連絡する医療連携が取られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理についての相談は、診療所の看護師、デイの看護師に助言をして頂き対応している。今後は、訪問看護師との医療連携はかっていく。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設での対応が可能な段階で早急な退院が出来る様に情報提供を・病院の地域連携室のソーシャルワーカーと話し合いに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	著しい体力低下や症状の悪化が見られた際は往診医の指示に従い紹介状を持参し入院対応を行う。ターミナルケアについては、往診医、ご家族、ホーム長、ケアマネジャー等で出来る事、出来ない事を話し合い検討し実施している。	入居時に、重度化した場合の対応を契約書として取り交している。今年度の看取り実績は4人であった。重度化した場合、医師の指示を仰ぎながら対応していくが、家族に連絡し医師との話し合いが持たれ今後の対策が確認される。その時には、訪問看護師もホームに来訪し細かな点を職員に指示していくことになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急法の講習に参加をして手当や初期対応の習得に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	令和2年9月より開始の為年2回(10月、3月)の消防訓練を行っており、役割分担にて訓練の実施に努めている。尚、コロナウイルス感染でスタッフ中心の訓練となる。	今年度は、12月と3月に火災と地震を想定した消防訓練が行われた。災害発生時の地域との連携は以前自治会長と支援体制が検討されたが、地域内の高齢化が進んでおり出来ていない状況である。BCP(事業継続計画)は、本社作成のものが送られてきており、今後会議の中で周知を図っていく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いを把握し、尊厳を保てる様に介護の必要性を予め説明し、支援に努めており、個人情報取り扱いについては同意をして頂き、細心の注意をはらっている。	利用者への呼びかけは、基本的には「さん」付けで行っている。家族から呼び名に関して要望があれば、それを使うようにしている。昔からの慣れた呼び名で声掛けをすることで、本人も落ち着くということが要因としてある。会社の規定に「プライバシー」の項目があり、規定集を使って年1回倫理に関する研修を職員会議で行い、周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話し合いや意見交換の場を設けており、本人に自己決定できる様な説明を行い納得して生活が送れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切にし、意見を尊重したうえで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する美容院や外出時には化粧や洋服選びなど、自己決定ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に盛りつけをしたり又好みや体調に応じた食事の提供をしている。また、普段の食事と違う雰囲気味わって貰う為、希望に応じて出前などの提供も行っている。外食も考えていましたがコロナウイルス感染で中止となりました。	菌の悪い人には、軟らかめ、きざみ食、ご飯をおかゆにするといった形で、本人の食べやすい食事の提供に注意を払っている。タコ焼き、お好み焼きといった皆が料理を作る段階から参加できるような行事食を取り入れることで、生き生きとした顔があちこちで見られる。食事中は、ゆっくりと落ち着いて食べてもらうためテレビを消して、昔の歌や童謡等の音楽を流し食事を味わってもらうように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事や水分の摂取量を記録し栄養を考慮した摂取が提供できるように支援している。また、摂取が少ない際には希望の物を用意するなどの工夫をしている。体重も毎月測定し、経過観察に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、義歯の方については夜間に外して頂き洗浄消毒を行っている。また、口腔ケアも含め、問題が発生した際は訪問歯科に依頼をして医師からの相談、指導を賜っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人がトイレで排泄できるように排泄パターンと排出サインの把握に努め、声掛けなどによるトイレ誘導を行っている。	職員の力を借りずに本人の力で用を足してもらおうことが、その人の一日の生活のリズムが保てるという考えのもとにトイレ支援に努めている。個人ごとの排泄が「個人記録」に書き込まれ、職員の誰もが確認できるよう共有化されている。現在、自立でトイレの用を足すことができる人は、1階で4人2階で6人いてリハパンを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の状態を把握して適度な運動や食事による排便リズムの改善に努め、医師や訪問看護師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	強制的な対応はせず、本人の希望に耳を傾けて対応している。また、入浴中も本人のペースで入浴できるように状況に合った対応を心掛けている。	入浴までが気難しい人には、「入ったら暖かくなるからね」といった声掛けに注意し誘導に気を配っている。入浴中はあくまでも本人のペースに合わせるようにしているが、長すぎる時は頃合いを見て、「そろそろ出ましょうか」とやさしく声を掛けている。安全面からは、湯舟に浸かる時に足が滑って転ばぬよう十分に気を付け介助に当たっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるようにマッサージ・湯たんぽ・布団干しなどゆっくり休める環境を提供している。状況に応じて適度な休息を保てるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や薬の内容を把握して服用時の様子を観察し、状況に応じてかかりつけ医に相談、助言を頂き服薬の最少化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴や残存機能を把握し役割をみつめて互いに生活を送れる関係作りに努めている。気分転換が図れるようにレクなどの提供もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染で中止となる。	年間の外出計画は立てられているが、実施はなかなか難しい状況にある。しかしながら、今年度初詣や弁当持参での花見、紅葉見物等に出掛けた。散歩は月に1～2回程、近くを歩く程度である。現在、外出に代わって、室内で皆で楽しみながらトランプ、カルタ取り等を行いストレス解消に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染で中止となる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は施設内の電話を使用して頂き、本人持参の携帯電話にてご家族と連絡をしている。手紙でのやりとりも代筆にて支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れて常に清潔な施設を心掛けている。不快のないように居室やトイレなどを分かりやすく表示して配慮を行っている。	春であれば、桜を描いた貼り絵を壁に貼って季節感を意識してもらうように心掛けている。ともすると、季節が分からない人も多く、今は季節は何ですかと聞いてくることもある。桜の貼り絵を見て、桜が咲いているから春ですよと答え、「ああ、もう春なんだ」とつぶやかれる。人によっては、食べ物以外でも口に入れることがあり、危険なため余分なものはテーブルの上に置かないようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気持ちの通えるように空間作りやトラブルの起きない座席での配慮を行っている。一人ひとりがゆっくりと過ごして頂けるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されてきた家具や貴重品をそのままお持ち頂く事で自宅に近い雰囲気作りに努め、環境整備を行い快適に過ごして頂けるように支援している。	馴染みの物を持ち込むことで、ホーム内での生活が安定していくという考えのもと、入居前に使用していた物の持ち込みは受け入れている。最初の室内のレイアウトは家族に決めてもらっているが、それ以降は安全面のこともあり職員が手直しをすることもある。全室エアコンがついているが、エアコンのスイッチを置いておくこと自分でいじってしまいどこに置いたか分からなくなることもあり、スイッチは部屋に置かないようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行動の抑制をしない為に危険性のある物品の排除や移動を行い、自ら考えて行動できるように努めている。日時を意識して頂けるように日めくりカレンダーやアラーム付の時計の設置をして生活習慣の支援に努めている。		